

# おれんじニュース

No 249

2010年12月号

10月24日 一足早い黒岳の紅葉

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

12月

運営委員会	7日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	21日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館

★山行の一步は会合から★

1月(2011)

11日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
7日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
25日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



秋の一日、案山子村を眺めてみました。あれー？中に本物の人間が一人まぎれています。どこにいるかわかりますか？



黒岳の紅葉三昧！！  
10月24日





# 12月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり部	山行部
月・日	5日(日)	10日(金)	18日(土)
山名 (行事)	三郡山(935.9m) 宝満山(829m)	小浜～唐比	福万山(1235.9m)
地図	太宰府		日出生台
集合時間	JR諫早駅裏7:00 JR西諫早駅7:10	県営バスターミナルにて8:50の島鉄バスに乗っていきます。	JR諫早駅裏6:00 JR西諫早駅6:10
帰着時間	18:00頃	17:00頃	20:00頃
歩行時間	4時間程度	4.5時間程度	4時間程度
難易度	初心者向き	初心者向き	初心者向き
交通手段	マイクロバス	雲仙行き(市役所経由)バス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り	有り	有り
参加費	5000円	交通費実費のみ	5000円
申し込み期限	満員になりしだい	当日までです。	満員になりしだい
集約	佐原	江崎	田中
備考	太宰府天満宮にもお参りします。	小浜で、唐比で温泉さんまいです。	納山です。温泉でゆっくり汗をながします。
感想文提出	12/12	12/17	12/22

## 技術研修部より

- 11月25日(木) 高岩権現にて遭難対策搬出訓練の準備とします(JR西諫早駅9:00集合)
- 11月27日(土) 県連遭難対策搬出訓練に参加することに変更です。(長崎市民の森)  
(西諫早駅8:30集合マイカー乗り合わせ)
- 12月25日(土) セルフレスキュー(JR西諫早駅9:30集合)

## 新しい仲間

☆久保さん 諫早市内在住 ☆ (^◇^)かんげーい!

今まで単独登山ばかりしてきて我がままなところがあるかも知れません。  
また、仕事の関係で定例会議にも出席できずにご迷惑をおかけいたしますが  
どうぞよろしく願いいたします。



## 1月の山行計画

部	オレンジ全体	技術研修部 & 山行部	山行部	技術研修部
月・日	1月1日	1月9日(日)	1月23日	1月30日
山名(行事)	御館山	多良岳	虚空蔵山	城山
地図			嬉野・彼杵	
集合時間	6:45(広場の東屋)	JR諫早駅 8:30 JR西諫早駅 8:40	JR 諫早駅 8:00 JR 西諫早駅 8:10	諫早駅 7:28
難易度		ゆっくりコース 健脚コース	ゆっくりコース 冒険コースあり	ゆっくり歩く
交通手段		マイカー	マイクロバス	JR&バス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉			有り、潮騒の湯	無し
参加費		1000円	3500円	交通費のみ
申込期限			定員になり次第	前日までに
集約		佐原	田中	佐原
備考	初もうでをします。 初日の出もながめます。	多良岳初詣で	大村湾を見下ろす東洋のマッターホルン	善長谷教会など歴史を紐解きながらの散策です。
感想文提出		1/16	1/30	2/10

### 「忘年会開催」



☆日時 12月11日(土) 18:30～

☆場所 登利亭(永昌東11-27電話 22-8611)

☆会費 4500円(男女とも) 12/9までに佐原さんに申し込んでください。

## 県連主催 第二回山の写真展

「私たちの山の記録」と題して下記要領で写真展を実施いたしますので、皆さんの出展をおねがいします。

期 日：2011年2月27日～3月6日

会 場：石丸文行堂

作品の対象：登山に関連した内容（山、登山スナップ、山の花、動物、ハイキングや沢登りの組み写真、山の紹介、集合写真など）

サイズ：A4以上

写真展実行委員 鎗水



## 10月・11月の山行報

10月2日（土）

### 郡岳～五家原岳縦走

（参加者） 岩田、川原、福岡、國分、山崎（元会員）森田（サポート要員）

（行程） 10/1(金)野岳湖キャンプ場 バンガロー泊

10/2(土)郡岳南登山口発 6:42—郡岳山頂 7:50—遠目山山頂 8:55—春日越 9:30—岩屋越 10:15—つげ尾 12:15—経ヶ岳山頂 13:00—中山越 13:45—笹岳 14:17—多良岳山頂 15:10—金泉寺 15:30—中岳山頂 16:35—五家原山頂 17:15—横峰越 18:00—黒木登山口 19:30—西諫早駅 20:20

（感想）昨夜、國分の到着が遅くなった為に郡岳登山口を予定より約1時間遅らせての出発となった。岩田Rを先頭に郡岳へのジグザグ道を登る。

時折、空砲が遠くに聞こえる。田んぼの雀威しであろうか。郡岳山頂からの展望はなんとなくもわっとしていて視界が悪い。天気予報では本日は雨との事だそうである。

遠目山へと向かう途中から少し細かい雨がパラパラと落ちてきた。遠目山頂でザックカバーを付ける。遠目山を過ぎたあたりから雨の粒が大きくなり雨具を付ける。出発が遅れているだけに経過時間が気になる。

でも、今日の行程を考えればまだまだ序の口入り口段階だ、先は長いあせる事はないと言い聞かせながら歩く。



春日越、岩屋越を経て、今日のサポートをして頂く森田氏とやっと岩屋山頂で連絡がついた。金泉寺で合流できそうである。このあたりからつげ尾までが気持的に遠かった。

いつしか雨もやみ時折日射しを感じる。

やっとつげ尾に到着。

無性にコーヒーが飲みたかった。コーヒーの香りがまさに至福のひとつきだった。

しかしそんなにゆっくりも出来ず出発。経ヶ岳山頂にて昼食。ここから先の行程が良く見える。まだまだ五家原岳は遠い。中山越から笹岳へ。金泉寺と多良岳分岐までのトラバース気味に進む岩の上が午前雨の為か尚一層滑り易く気が抜けない。役行者にザック番をしてもらい空身で多良岳へ。

郡岳から多良岳までの今日の行程が望める、やはり長い。

金泉寺では森田氏が迎えてくれた。そしてスペシャルコーヒーをごちそうしていただいた。おいしかった。

残すはあと二座だけである。

次は五家原山頂でと言葉を交わして森田氏と別れ、我々は中岳へ向けて出発。

五家原山頂到着は岩田Rの計らいで五人揃って一步だった。ここで喜んではいけない。

黒木までの最後の下りが残っている。やはり時とともに暗くなりヘッドランプを点灯しての下りとなった。真っ暗な中、沢の渡渉点でテープの案内が良く見えればし右往左往したものの無事黒木に到着。

森田氏がちゃんと下山口で待っていてくれていた。ありがたかった。お疲れさまでした。

(國分 記)

## 10月16日(土)

### 郡岳登山

(自主)

(参加者) 松園、山下

(行程) 西登山口 9:00—林道 9:15—坊岩 10:15—山頂 10:30—山頂発 10:50—登山口 11:50

(感想) 郡岳は何度か登った事があったが、西側からの登山は初めてであった。前日、I氏のログハウスに泊めて頂いたのでこの計画を思いついた。登山口も前日に確認し、万全の準備でのぞんだ。ただ、朝方、二階から降りる時、階段を4、5段踏み外しいやというほど尻もちをついた。足首も痛んだ。今日はゆっくり登ろうと話し合った。

林道に入ってすぐ、福岡から車で来ている夫婦ずれとであった。西日本新聞に掲載された西日本百名山をずっと夫婦で登っているらしい。いっしょに登りましょうと誘ったが牛歩のあゆみなのでお先にどうぞ、と言われた。別に急いだわけではないのだが、その夫婦との距離はだんだん大きくなり途中迷われたかなと心配した程であった。

ところで、この西ルートは最初ちょっと滑りそうな道があったがあとは比較的歩きやすいし、坊岩では展望もよく気持ちよく歩けるところだった。鉄塔あたりのススキや草の生い茂ったあたりはイノコズチ等がズボンに着いたりしたが、たいして気にはならなかった。

90分ぐらいで山頂に着いた。展望を楽しみながらおやつを食べていたら、いきなり南登山口から、どやどやと30人ぐらいの中高年のグループがやって来た。皆、同じようなワッペンを帽子などに付けていてツアーかなと思ったら、ウォーキンググループらしい。しかも地元大村の。ウォーキングで山に登るのかな?と思ったら、最初は経ヶ岳に登る予

定だったとか。ウーン。オレンジ顔負けである。服装も結構、山の装備。

そうこうしてる間にやっと最初に出会った福岡の夫婦ずれが登って来た。かなり牛歩である。団体が西口に下りると聞いて一足先にあわてて下りた。登山口着 11:50 だった。

野岳湖のほとりで弁当を食べて家に帰った。(山下 記)

## 10月22日(金)

### 天山 (1046.2m)

(参加者) 小山、松尾(香)、森下、山口、林田、金丸、佐藤 (7名)

(行程) 西諫早駅前 7:00—多久 IC—天山登山口 10:00—天山駐車場 10:50—天山山頂 11:50—雨山—多久 IC—諫早 IC—西諫早駅着

(感想) 午前7時、予定どおり西諫早駅前を男4名、女3名というメンバーで小山さんの車に乗せてもらい出発。諫早 IC から高速道路に入り、車は一路天山を目指して走りだした。

途中、川登 SA で休憩し、多久 IC で高速道路ともお別れし、天山登山口を目指して小城に入った。林道を走っていたところ、突然「通行止」の看板。やや広い所があったので、そこに車を止め下車し、そこから歩くことになった。

午前10時、同所を出発し、林道を歩いていたところ、林道の表面が大雨のためなのか約10m近くえぐり取られ、その上にブルーシートが敷かれてあった。

歩いている途中道端にはいろんな草花が咲いていて、「これはなんという花なの」という質問に対し、「今日は花博士が参加してないので、分らん。」という回答。草花を観賞しながら約50分歩いたところ、天山駐車場に着いた。その駐車場からの眺め、広々とした佐賀平野の黄金色に輝いている田圃や遠く霞んで見える有明海、何とも表現できない絶景。

午前11時同所を出発し、天山登山口から僅かに登った左側に「天山宮」のミニ鳥居が見えた。その奥に「天山宮」が祭られた祠があったので、そこで無事を祈ってのお参りをし、いよいよ目的としている天山を目指して約590段の急な階段を登り終わるとややなだらかな登山道、その両脇には紫色した「りんどう」が所々に咲いていて、「ここにもある。」「わあー綺麗。」と感嘆な女性の声。間もなくして右に行けば天山、左に行けば雨山との標識が立っていたので、我々は右の急な登山道を登り始めた。

途中、ハガキ大の板で「センプリをとらないください。」とか「トリカブトをとらないください。」という立札がいたる所に立てられていた。天山近くは一面すすきの穂、北の方からの風によりおいでおいでをしていた。

午前11時50分天山の頂上に到着。頂上は何も遮るものではなく、360度の大パノラマ、雄大な展望、何と表現していいのかわからないが、残念ながらその表現方法を持ち合わせていない。

我々は、南側の斜面に列になり、眼下に雨山を、南西の方角に八幡岳や女岳を、南から東の方角一帯にかけて、



黄金色に輝く広々とした佐賀平野や小城の街を眺めながらの昼食、何と贅沢な事か。

午後0時50分天山の頂上にお別れし下山し始めた。その時「時間も有るから雨山にも登ろう。」との提案があり、全員賛成。登る道脇に紫色した「リンドウ」の花が点々と咲いて

おり、女性の皆さんは「ここにも咲いている、ここにも咲いている。」と感嘆の声を発しておられた。

雨山に到着し、記念撮影を終え下山しようとした時、ハプニングが発生。そのために時間を浪費し、予定の時刻を遅れて多久ICに入り、車は高速道路を諫早を目指して走りだした。

ハプニングの為に家についた時刻は遅くなったが、今回の山登りは、天気も大変良かったし、天山からの眺めも筆舌に尽くしがたい景色であったし、登山道の道端に咲いていた可憐な草花を觀賞しながら、和気あいあいとした山登りであったので、その状況が脳裏に深く刻み込まれ、将来いい思い出となる事と思う。

小山さんは、大変疲れた体に鞭打って、車を運転していただき、全員無事朝の出発地まで運んでいただいた。どうも有り難うございました。(佐藤 伯隆)



10月24日(日)

## 黒 岳

(参加者) 鎗水、坂口、兵庫、篠原、松園、田中(静) 久保 (7名)

(行程) 西諫早駅 6:10ー男池登山口 9:15ーかくし水 9:37ーソババツケ 10:07ー高塚山頂  
12:45ー登山口着 16:40

諫早から久住へ向かう途中は朝焼けがきれいで晴れ間を期待したが、黒岳登山口に着くとそこは雨。全員合羽を着込んでいざ出発。お見かけしたところ、私より年上の方が多いためなので楽ショーと思って歩き出したが、どうしてどうして油断すると前に行く篠原さんの後ろ姿が小さくなり正直あせった。「ハイキング」の名前からしてもっとゆっくりしたペースだろうと甘く考えていたことを反省した。と同時にオレンジハイキングクラブがレベルが高いクラブであることを思い知らされた。



汗だくになり、ついて行けるだろうか心配していたらトップの坂口さんから「休みましょう」と声がかかりほっと一息。最初の休憩場所の「かくし水」だった。9時37分着。男池登山口を9時15分に出発したので22分のハイペース。やはり速い。汗をかいている人が多かったため坂口さんが「暑い人は脱いでください」と呼びかけていた。すると「もうこれ以上脱げません」と女性の声が聞こえたので思わず視線はそちらの方に向いてしまった。(ごほん)。田中さんだった。

もう一人の貴重な存在の松園さんは甘いものを配って下さっていた。頂いた飴を口の中に入れると甘味が広がり元気が出てきた。グループ登山っていいなと思う瞬間だった。元気を取り戻していざ出発。今度は皆さんと同じペースで歩けた。ソババツケ10時7分着。ここから大戸越を経由して平治岳にいける。10年前にテントを担いで登ったことがある。



途中ミヤマキリシマが枝を伸ばしかなりかすり傷を負った記憶がある。

ソババツケは元々沼地なのに雨が降り、ますますぬかるんでいた。ソババツケ 10 時 13 分発。風穴に向かう途中苔むした大木が何本も佇んでいた。この木たちは何百年生きているのだろう。雨が降っても風が吹いても文句ひとつ言わずただ立っている。すごいな、えらいな、と思っていたら坂口さんの「風穴に着きました」の声で我に返った。ここまで来る間鎗水さんが紅葉している、あるいはしかかっているもみじやかえでやダケカンバの写真撮っていた。腕がいいと誰かほめていた。期待がもてる。確かに雨にぬれた落ち葉も風情がある。真っ紅になったもみじの下に、土に戻りかけた葉っぱも折り重なっていた。おれもいつかはああやって土に帰るのか、としんみりなってしまう。

風穴で 20 人ほどのグループに追いついた。休憩していたら先を越された。ほどなくしてわたしたち七人の侍(?)も後に続いた。ここからは久住三大急登とか誰か言っていた。さすがにすこしきつい。そういえば子どもがまだ小学生のころ家族でここを登ったことがあった。みんなできつききつと言って高塚山に登頂して下山途中でハーモニカおじさんと出会ったっけ。もう日が暮れかかっていたけどみんなで「夕焼け小焼け」を歌ったことを思い出した。今日はいないよな、ハーモニカおじさん。

ハーモニカおじさんどころかわたしたち以外にはさきほどの団体と若い男女の 2 組しか見当たらなかった。そりゃそうだろう。ずっと雨だもん。しかし愚痴は言うまい。温泉が待っている。ビールが待っている。ここはひたすら登るしかない。この急登を登っている間も鎗水さんは時折りビニールからカメラを取り出し熱心に雨に煙る紅葉を撮っていた。

ただ脱帽。

まもなく天狗分かれ着。ここで一気にさきほどの団体を抜き去る。坂口さんの男意気を感じた瞬間だった。しかしここで休憩を取らなかったのも私たち男組はこのハイペースについていけず、後からゆっくり登頂することにした。12 時 45 分登頂。先発隊は 35 分登頂とのこと。山頂はさえぎるものがなく昼食は下の天狗分かれでとった。雨はやまず昨夜マックスバリューで買ったしょうが焼き弁当をあけると肉とスパゲティとポテサラが混ざっていた。それを雨水と一緒にお茶漬けみたいに流し込む。うまい！やはり山ではどんなものでもうまい。

空腹が満たされたので元気が出てきた。全員で天狗岩に向かう。すると坂口さんが「ここから先は滑りやすいので、足に自信がない人はここで待っていてください」と伝達。坂口さん、鎗水さんに続いて勢いで一步を踏み出してしまった。篠原さんが近いうちに剣岳に登りたいと言っていたので誘うがふられた。三人だけか。すこし心配になってきた。濡れた岩峰群を見ると四年前飯豊山のお秘所で滑って左腕を岩に打ち付けたことを思い出した。保険も入っていないし、正直びびった。しかし先発のお二人から救いの手を差し伸べていただき、無事天狗分かれに帰還できた。頂上で坂口さんと鎗水さんが交替で写真を撮ってくれた。この時へっぴり腰になっていたと思う。

帰りは風穴を見学し 16 時 36 分登山口に帰着。帰ってきたら待っていたかのように雨が止んだ。全員ずぶ濡れで寒くなったので牧場の温泉へ。この温泉の気持ちよかったこと。そしてビールのおいしかったこと。雨でも山は風情がある。でも正直今度は雨が降っていない時に登りたい。

入会初回で雨の洗礼を受けた。しかし他のメンバーの方の気配りに触れグループ登山のぬくもりを体感することができました。この場を借りてお礼申し上げます。また、出発、到着時間は兵庫さんが計測してくださった時間を使わせていただきました。ありがとうございました。

(久保 元治記)

10月30日(土) 晴れ～31日(日) 雨

## 九州ブロック遭難対策訓練 in 霧島

<参加者> オレンジHC：川原・坂口・松園（長崎県：合計20名が参加）

<行程> 10/30 諫早発 7:30→えびの高原キャンプ村到着 12:10 [受付後13時～21時まで夕食を挟んで講演会と実技講習が実施された①韓国岳小学生遭難事故について②救急救命の対処法について③セルフレスキュー訓練]

10/31 ABCの3コース登山とセルフレスキュー組に分かれる

Aコース「韓国岳直登コース」・Bコース「大浪池経由韓国岳コース」・Cコース「大浪池周回散策コース」\*オレンジの3名はBコースに参加  
キャンプ村発 7:50→大浪池避難小屋着 9:00→遭難現場付近に到着 9:30 黙祷→韓国岳山頂着 10:10→キャンプ村到着 12:00  
キャンプ村発 13:30→諫早IC着 18:00

<感想>

九州ブロックの行事に初めて参加し、「元気の出る集会」と「遭難対策訓練」が交互に実施されていることが分かった。昨年長崎県が「元気の出る集会」を担当したことは記憶に新しい。今年は鹿児島県が「遭難訓練」を開催し、来年は熊本県がまた「元気の出る集会」を9月に開催する旨の挨拶があった。開催県は企画に頭をひねり、開催に労力を注ぐ。

綿々と続いてきた組織活動の一端を垣間見た2日間だった。

昨年起きた、「小学生の遭難」という痛ましい「事故」を遭難対策の教訓に取り組んだ鹿児島県連の企画は、話題性や関心の高さもあいまって100名余の参加があった。

初日の講演で、第一発見者である消防署員が、「神がかりのようだが、M君が私を呼び寄せたとしか思えない」という話を何回もされた時、何となく違和感を覚えた者も多かったように思うが、実際の現場を見た時「さもありなん」という気持ちになった。

消防署員が足を踏み込んだ場所は、大浪池から韓国岳に登るルートのはぼ中間点で、鈴竹がびっしり生えているところであった。よほど明確な目的がなければ、足を踏み入れることなど及びもつかない場所である。登山道から直線距離で60mくらいの沢にM君は倒れていたそうである。Bコースの参加者18名で1分間の黙祷を捧げた。この日ガイドを担当された鹿児島勤労者山岳会の今村氏は、捜索隊の一員として先の消防署員と一緒に現場に花を捧げたそうである。状況説明は臨場感に溢れていて、「家族は心痛のあまり捜索に加われず、親戚が代わりに参加していた」という話には胸が痛んだ。

事故が発生した丁度1年前の同じ日、31日にM君の供養をすることができた。

今回の講演は3本柱であり、和白病院の富岡医師による「救急救命の対処法」もわかり易く具体的で、特に「時間があまるので」としてくれた「高山病」に関する話は面白く大変参考になった。セルフレスキューは、オレンジで毎月実施している内容とほぼ同じで、講師の稲永氏は、昨年野北海岸で岩登りの訓練をした時、親切なアドバイスをしてくれた川原さんのガイド仲間であった。他の会は知らないが、私達オレンジは、九州ブロックに研修に来なければ知ることの出来ない技術を毎月、それも無料で、何回も繰り返し教わっているのである。いかに恵まれた環境にあるかということに改めて思い知った。

帰りのマイクロバスでは、参加しての感想を述べ合ったが、同じ長崎県連の山仲間とブタ汁を囲み、大軒には悩まされもしたが、楽しい交流が出来たことを素直に喜びたいと思っている。また、これまでの長崎県連の活動や、九州ブロックの歩みに触れることができ

たのも収穫のひとつだと思っている。何より、古い先輩の一人が「もう僕も引退かと思っていたが、小さな芽くらいはまだ咲かせることが出来るかもしれない」とぼそっと話されたのが印象に残っている。(松園)

## 11月6日(土)・7日(日)

### 釈迦ヶ岳(830.6m)・綾大吊り橋・大森岳(1109m)

(参加者) 山下、松尾、森(寿)、下釜、田中(紘)、福岡、  
松園、佐原、本秀、川原、中村、他2名(岩永清子、水江美恵子) 計13名

6日(土)

(行程) JR 諫早 6:00—法華岳薬師寺 11:30—釈迦ヶ岳頂上 13:45—昼食—登山口 15:45

(感想) 「ファミリーハイク向きの山」の言葉につられて、半年振りの山行。小学生の遠足前夜並みのソワソワ・ウキウキと「皆さんに迷惑かけずに登れるかな」とが交錯する。定刻6時に諫早発、まだ日の出前で暗い。長崎道～九州道～宮崎道とバスは走り、釈迦ヶ岳登山口へ5時間余りかけて到着。登山開始(11:35)ロープを頼りに登ったと思うと、次は平坦又は下り道、もう頂上かと思いきや又下る。という騙しピークを2,3回登り越してようやく頂上着(13:45)遅い昼食。

私にはかなりハードな山と思えたが、途中の標識「頂上まで2000m」とか「1000m」「〇合目」などがしっかりしていて心強かった。木々の紅葉は紅色が少なく、オレンジ系から黄色が多く、南国の秋であった。同じルートを下山(15:45着)

次に目指すは「酒泉の杜」であるが、携帯で連絡をとると、19時までオープンとのことで、日の暮れぬうちに綾大吊橋へ。そこに至るまでの道路が国道とは名ばかり、道幅が狭く右に左につづれ折、

ドライバーの腕の見せどころ。東国原知事の「宮崎をどげんかせんといかん」という言葉に、妙に同感しながら大吊橋着。ところが、ただ今補修工事中で通行止め。橋の袂にある日本一の記念碑前で集合写真。実はこの橋、九重の夢大橋にトップを奪われているのです。対岸の山肌はオレンジや黄色にやさしく彩られている。照葉樹林では紅色はあまり期待できないようです。早々に引き上げ、いざ酒泉の杜へ。

ここは、雲海酒造が運営するレジャーランド。アルコールが試飲できるのが魅力とか。ホロ酔い気分でお土産に焼酎や日本酒を買い求める方もあり。ガラス工芸館をのぞいて目の保養をしてから、今夜の宿「ゆうばる野尻」へ向かう。18時着。

この民宿が、又面白い。道の駅に温泉と宿泊施設が併設されている。我々が泊まる大広間の隣室では、宴会が開かれ、地域の集会的な要素もあるみたい。午後9時過ぎ、山友達の和田さん(この近くにお住まいらしい)が、一献下げて来訪され、男性陣の宴が一段と賑やかになる。10時にお開き。

11月7日(日) 大森岳

昨夜パラパラと降った雨のお陰で、地面も空気もしっとりして気持ちがいい。宿スター



ト (7:45)

バスが入れるギリギリのところまで乗り入れ、あとは林道を歩く。登山組と散策組に分かれて、未舗装の林道をテクテク。私は昨日、下山の時に、足がつりそうになったので無理をせず、散策組に入り、1時間45分かけて、登山口まで歩いた。ここで出発準備を終えた登山組に追いつき、彼・彼女らを見送ってから、同じ道を引き返す。

ゆっくり歩いていると、いろいろなものが見えるし、感じられる。色づいた落ち葉を拾ったり、木々の間からは、照葉樹の緑の山並みが幾重にも重なって見える。数えてみると、八重にもなる。最後方にかすんで見えるのは霧島連山か？ 大いなる山の懷に抱かれているという安らかな心地になり、宮崎の山の奥深さを堪能した。ようやくバスに辿り着き(12:35)、皆さんとビールで乾杯して昼食。おしゃべりしながら登山組の到着を待つ。待つこと約2時間、全員無事到着。皆さん異口同音に、山よりも林道歩きがキツカッタ！！とのこと。大森岳の様子は、リーダーの山下さんにバトンタッチします。(田中紘子 記)

### 大森岳

(行程) 登山口 10:30—大森岳頂上 11:45—昼食—スタート 12:15—登山口 13:10

大森岳は偵察の時からバスがどこまで入れるかが問題だった。マイクロバスだったので路肩が危なくて危険な所を避けて手前でバスを降りた。

林道歩きが長く登山口から大森岳に登ったのは7名。

登山口の表示は3, 4か所のピークで1時間10分と書いてあった。いきなり登り始めからかなりの急登。息を切らしながら登っていたら、このペースで行けば1時間で頂上に着くでしょうって川原さん。気を良くして木に付けてある目印テープを便りにどンドンいくがアップダウンが7つ位過ぎた頃やっと頂上であった。1時間15分かかった。途中の尾根道はあまり踏み跡もなく山深さを感じた。こちらの方は色づいた木々があったが落葉していた。M氏は又全身汗をかき着替えていた。弁当を食べて下山した。バスまでの林道歩きがかなり応えた。(山下 記)



林道最後のがんばり。努力賞をあげたい！



法華岳薬師寺公園にて先ず体操



釈迦ヶ岳の頂上の山美女？



釈迦ヶ岳山頂にてまず集合写真



照葉樹林帯の中の、色づいた楓



朝もやの中をもくもく歩く大森林道



おおきなさるのこしかけ、30センチぐらい



I邸、かぶら池からの郡岳



猪見岳(ししみ)というらしい



相変わらず蜘蛛の巣にこだわってます。  
カメラはいつも持ち歩いているので、つい。



黒岳の紅葉 10月24日



大森岳頂上付近の登山道の紅葉した落葉 11月7日

おれんじニュースNo249	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2010.11.23
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.web.fc2.com/">http://orangehikingclub.web.fc2.com/</a>



ツチグリというきのこ。  
大森岳頂上付近の尾根道  
で発見。雨の日などは花  
びらみたいに開く。